

シャルク・タロナラル（東洋音楽祭）の概要

——ウズベキスタン共和国による無形文化遺産保護に関する一断面——

斎藤 完

Overview of Sharq Taronalari International Music Festival

SAITO Mitsuru

(Received September 25, 2015)

シャルク・タロナラル Sharq Taronalari（東洋音楽祭）は2年に1度、サマルカンドで開かれる国際音楽フェスティバルである。以下に、2015年3月18日に同音楽祭の事務局（St. Toshbuloq 8b [Hamza Umarov 8b], Tashkent）でおこなったフスニッディン・アト氏 Husniddin Ato（Senior Specialist of International Department）からの聞き取り、さらには同氏より提供された関連文書などから、同祭の概要を示したい。そのうえで同祭が共和国の無形文化遺産保護とどのように関わるのかについて言及したい。

1. フェスティバル概要

シャルク・タロナラルはイスラーム・カリモフ Islom Abdug'aniyevich Karimov ウズベキスタン共和国大統領¹主導のもと1997年に始められた。運営を担っているのは、文化スポーツ省、サマルカンド県、UZBEKNAVO（演奏家協会）、国营放送局、作曲家連盟で、官が主導しておこなう国家的プロジェクトと言っても差し支えない。その趣旨は次のとおりである。

フェスティバルの主目的は民族的な音楽芸術の最良の成果を広く普及させ、伝統や文化を保存・発展させ、音楽分野における才能のある人々を奨励し、国を超えた創造的な結びつきを広げ、文化的・精神的な協調性を強め、そして平和と友情と相互間の思いやりを讃えることである（Ministry of Culture and Sports Affairs of the Republic of Uzbekistan 2013：5）。

フェスティバルは年を追うごとに規模を拡大し、参加国数は31ヶ国（1997年）から54ヶ国（2013年）に達するようになった。全9回のフェスティバルに参加した国や地域の合計数は92ヶ国である（具体的には巻末の表1を参照）²。

¹ウズベキスタン共和国建国（1991年）以来、2015年現在まで現職。

²たとえば、中華民国（台湾）と中華人民共和国は分けてある。英国連邦もイギリス、スコットランド、ウェールズと個別に扱われている。

フェスティバルは6日間かけておこなわれる。2011年では以下の内容であった。

8月25日19時から前夜祭。20時からはジプシー・キングスのライブ演奏が披露された。

26日19時にサマルカンド市中心部に位置するレジスタン広場にて開会式がおこなわれ、これをもってフェスティバルは正式に開幕した。式典ではウズベキスタン共和国大統領の演説のほか、会場が色とりどりにライトアップされるなか同国の音楽(伝統的な音楽からポピュラー音楽まで。多くが歌謡)が群舞を伴いながら次々と披露された。

27日。15時にプレジデントホテルにて学術会議の開会式、18時にウルグベック神学校にてウズベクの楽器と工芸品展の開会式、19時からはレジスタン広場にてコンテスト(初日)が始まる。14組が参加し23時40分に終了。同時間帯には市内3ヶ所にてコンサートがおこなわれた。

28日。9時から13時と14時から17時にプレジデントホテルにて学術会議が開かれ、同時間帯にはウルグベック神学校にてウズベクの楽器と工芸品展が開催された。19時から24時までレジスタン広場にてコンテストがおこなわれ、15組が出演。前日と同様に、同時間帯に市内3ヶ所にてコンサートがおこなわれる。

29日は前日とほぼ同じスケジュール(ただし、コンテストに出場する団体が12団体であるため、終了時間は23時であった)。

30日は19時から授賞式がおこなわれ、その後ガラコンサートが続き、閉会となる。

フェスティバルの核となっているのがコンテストである。アト氏によると、コンテストに参加できるのは、「民俗芸能」と「伝統音楽」と「民族性を反映させた現代作品」とのことだが、従来の参加作品を見渡すと、西洋クラシック音楽、ならびに西洋ポピュラー音楽以外なら何でも受け入れているようだ。地域もヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、オセアニアと「東洋」に限定されず、世界各地から参加者がある。フェスティバル開催のおよそ半年前までに参加者を募り、送られてきた映像ないしは音資料に基づいて参加の可否を決定するそうだ。

コンテストの審査は国際的に構成された審査委員が当たる。2013年では中国、韓国、アメリカ、アフガニスタン、インドネシア、エジプト、パキスタン、モロッコ、フランス、ウズベキスタン(2人)から構成されておりそれぞれの肩書きは、順に芸術祭監督、大学教員、作曲家、作曲家、音楽祭監督、作曲家、政府高官、芸術祭監督、大学教員、音楽団団長、音楽院教員となっている。審査の基準となるのは、音楽により表出する民族性、視覚面における非西洋性、演奏技術の高さなどであるとのことだ。

グランプリには1万ドル、1位には7000ドル、2位には5000ドル、3位には3000ドルが贈呈されるが、他団体による特別賞も用意されている。上位入賞国は巻末の表2を参照されたい。

コンテストと並んで重視されているのが、学術会議である。この会議の存在が、このフェスティバルを単なる「お祭」で終わらせずに、文化的意義の高いイベントにしているとのことだ。

2013年を例に具体的に見てみたい。テーマは「現代文化における東洋の音楽的伝統」で、会場はレジスタンプラザホテル会議場であった。

8月26日。開会式がおこなわれ、まずAdham Ikramov副首相、Irina Bokovaユネスコ事務総長、Minhojiddin Hojimatov文化スポーツ省大臣がそれぞれ歓迎の演説をおこなった。続いて、Oqilhon Ibrohimov(ウズベキスタン、ウズベキスタン国立音楽院院長)を議長として、次の順で各自が約20分の発表をおこなった。Oqilhon Ibrohimovが「マコームのもつ宇宙論的側

面」、David Hebert（ノルウェー、グリーグアカデミー教授）が「歴史的民族音楽学における新しい理論と方法」、Chariyar Jumaev（トゥルクメニスタン、音楽家・音楽学者）が「現代におけるガルギ・トゥイドゥクとドゥトール（トゥルクメニスタンの伝統）」、Irfan Zuberi（インド、Naad Saagarアーカイヴス主席研究員）が「南アジア音楽に関する問題点」、Abduvali Abdurashidov（タジキスタン、音楽家・音楽学者）が「シャシマコームにおけるマコームの名称に関する問題点」、Franki Raden（インドネシア、インドネシア音楽祭創始者）が「インドネシア音楽における3000年の伝統」を発表した。

27日。セッションの2回目は Arzu Azimova（ウズベキスタン、ウズベキスタン国立音楽院教授）を議長として、次の順で発表がおこなわれた。Saida Kosimhojaeva（ウズベキスタン、音楽教育）が「ウズベキスタンにおける音楽教育」、Gertrud Maria Huber（ドイツ、ウィーン国立音楽大学博士号取得候補者）が「スイトラのもつ快適な音——伝統的東洋から近代的西洋へ——」、Pak Hyun Jo（韓国、韓国音楽教育学会会長）が「伝統音楽の近代化（サムルノリの事例より）」、Saida Daukeeva（カザフスタン、カルマンガズィ国立音楽院民俗音楽研究所所長）が「コビズ演奏家の歴史について」、Arzu Azimova（ウズベキスタン、ウズベキスタン国立音楽院教授）が「古代音楽に関する意味論的研究」、Sándor Szabó（ハンガリー、作曲家・演奏家）が「ハンガリーのマカームに関する研究」を発表した（なお、Mehmet Sabir Kargir〔アフガニスタン、作曲家〕も発表したが題目不詳）。

28日。セッションの3回目は Saida Daukeeva（カザフスタン、カルマンガズィ国立音楽院民俗音楽研究所所長）を議長として、次の順で発表がおこなわれた。Margarita Karatigina（ロシア、チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院シニア講師）が「東洋の伝統音楽の研究における方法論」、Elnara Mamadjanova（ウズベキスタン、ウズベキスタン国立音楽院助教）が「デジタル時代におけるウズベク伝統音楽」、Mahdi ibn Muhammad al-Talaat（作曲家）が「近代アラブ音楽の芸術的表現」、Lala Guseynova（アゼルバイジャン、音楽学者）が「近代アゼルバイジャン音楽におけるムコーム」、Shain Mustafaev（ユネスコ中央アジア研究所所長）「ユネスコ中央アジア研究所の活動と文化遺産」、Ulmas Rasulov（ウズベキスタン、国立芸術文化研究所教授）が「ウズベクの伝統的舞台芸術のもつ重要性」、Sashar Zarif（カナダ、舞踊家）が「伝統から近代へ」を発表した。同日の14時から第4回目のセッションがおこなわれた。午前と同じく Margarita Karatigina を議長として、次の発表がおこなわれた。Raziya Sirdibaeva（キルギスタン、音楽学者）が「近代キルギス芸術としてのマナス」、Shomurod Mustafaev（ウズベキスタン、音楽教育）が「サマルカンドにおける音楽教育」を発表した（なお、Mun Hyun Suk〔韓国、韓国国際民間文化芸術交流協会事務総長〕ならびにサイトウマサタケ〔日本、竹友社同人〕も発表したが題目不詳）。

その後、Oqilhon Ibrohimov（ウズベキスタン、ウズベキスタン国立音楽院院長）を議長として討議がおこなわれた。討議に参加したのは、Dina Ceyne（ラトヴィア、音楽学者）ほか8名である。

2. シャルク・タロナラルと無形文化遺産保護の関係

以上がフェスティバルの概要であるが、この国際的なイベントの目的のひとつに挙げられるのが、対外的に「ウズベキスタン共和国」を周知することである。

ウズベキスタンは約1世紀ものあいだ、ソビエト連邦を構成する共和国として存在したために、国際的な認知度が低いという自己認識がある。これを克服して、独自の文化をもった独立

国家としてのウズベキスタンを世界に広めるために、このフェスティバルが継続的に開催されている³。

参加国（機関も含む）を見てみると、開催されたフェスティバル全9回中9回参加しているのが、オーストリア、イギリス、ドイツ、韓国、キルギスタン、カザフスタン、エジプト、ロシア、タジキスタン、トルコ、ウズベキスタン、フランス、インド、イラン、日本、ユネスコ。8回がアメリカ合衆国、イスラエル、アゼルバイジャン、中国である。

中央アジアを中心としたテュルク諸語を母語とする国々に加えて、いわゆる「先進国」や「大国」、さらにはユネスコが高い頻度で参加しており、国際音楽フェスティバルの体面は保ち続けており、国際的な認知を獲得しようとする同祭に課された役割は継続中とみてとることができる。

それと同時に、この音楽フェスティバルには、国内における無形文化遺産の保護育成に大きく貢献している側面もある。国内で開催されるフェスティバルとは言え、世界中から音楽家が集い、そして競うこのコンテストに出場することは、若い演奏家の励みになっているとのことだ。シャルク・タロナラル事務局での取材後に聞き取りをおこなった、ハサン・ラジャビー Hasan Rajabi（タンブール奏者。ユヌス・ラジャビー記念資料館館長。2015年3月22日取材）、ならびにローザ・ホジャエヴァ Roza Khojaeva（ドゥタール奏者。G'anijon Toshmatov nomidagi dutarchilar ansambli 団長。2015年3月23日取材）、両者ともに同祭の意義に関して最初に指摘したのが、若手の育成、ひいては伝統的音楽の保護への貢献であった。

開催国であるウズベキスタンは毎度多くの演奏家をフェスティバル（コンテスト）に送り込んでいる。これまでの計9回の大会への参加人数はのべ196人でこの人数は参加国中最多で、二番目に多い韓国（129人）を大きく引き離す。ウズベキスタンの参加者たちの多くは国内で開かれるさまざまなコンテストでの受賞経験があり、シャルク・タロナラルをいわば最終目標としている演奏家も少なくないようである⁴。上位入賞も第六回大会を除いて毎回——具体的には優勝1回、1位5回、2位1回、3位1回（表2参照のこと）——果たしており、こうした好成績も若手のモチベーションを高めているようだ。

じつはこのようなかたちで無形文化遺産の保護育成が促進されるのは想定外だったようである。事務局のアト氏によると、当初は国際的な舞台で世界の伝統音楽とともにウズベキスタンの伝統音楽が奏される（競われる）模様を国営放送が伝えることによって、国民の間に伝統文化に対する意識が高揚し、その結果として無形文化遺産の保護育成が促進されるとの認識だったようだ。

同フェスティバルが担い手の意識を高めるのに効果を発揮していることが認識されて以降、ウズベキスタンからの参加人数は大幅に増員されている。参加人数は第1回大会から順に、17、18、16、24、10、9、39、26、37となっており、明確に目的意識をもって増員を始めたのは第7回大会（2009年）からであることがわかる。増員による効果は現在のところは不可知だが、シャルク・タロナラルの今後の発展につれて、無形文化遺産の保護育成が促進されることが期待されている。

³アト氏によると、近隣の中央アジア諸国でも国際音楽祭がおこなわれていたが、現在まで継続しているのはこのシャルク・タロナラルのみだけである。

⁴ハサン・ラジャビー氏のご教示による。

【付記】本研究は科学研究費補助金・基盤研究（B）「中央ユーラシアにおける探検隊考古資料を活用した無形文化遺産の保存伝承研究（2013年～2017年、研究代表者：鶴島三壽）」の成果の一部である。

参考文献

Ministry of Culture and Sports Affairs of the Republic of Uzbekistan. (2011). *VIII Sharq Taronalari International Music Festival*, Samarqand, Ministry of Culture and Sports Affairs of the Republic of Uzbekistan.

Ministry of Culture and Sports Affairs of the Republic of Uzbekistan. (2013). *IX Sharq Taronalari International Music Festival*, Samarqand Ministry of Culture and Sports Affairs of the Republic of Uzbekistan.

参考映像資料（DVD）

TVR Studio (2011). *Sharq Taronalari 2011*, Tashkent, National Television and Radio Company of Uzbekistan.

TVR Studio (2013). *Sharq Taronalari 2013*, Tashkent, National Television and Radio Company of Uzbekistan.

巻末資料

【表1：シャルク・タロナラル参加国一覧（第1回～第9回）】⁵

オーストリア (9)、イギリス (9)、ドイツ (9)、韓国 (9)、キルギスタン (9)、カザフスタン (9)、エジプト (9)、ロシア (9)、タジキスタン (9)、トルコ (9)、フランス (9)、ウズベキスタン (9)、インド (9)、中国 (9)、イラン (9)、日本 (9)、ユネスコ (9)、アメリカ合衆国 (8)、イスラエル (8)、アゼルバイジャン (8)、バングラデシュ (7)、ギリシア (7)、インドネシア (7)、イタリア (7)、パキスタン (7)、トゥルクメニスタン (7)、エストニア (7)、アフガニスタン (6)、ラトヴィア (6)、マレーシア (6)、モンゴル (6)、アルメニア (5)、グルジア (5)、クウェート (5)、モロッコ (5)、サウジ・アラビア (5)、タイ (5)、ウクライナ (5)、ベラルーシ (4)、ベルギー (4)、ブルガリア (4)、ヴェトナム (4)、スペイン (4)、ネパール (4)、スイス (4)、カナダ (3)、メキシコ (3)、モルドヴァ (3)、ノルウェー (3)、ヨルダン (3)、シンガポール (3)、UAE (2)、ブラジル (2)、ブルキナファソ (2)、ハンガリー (2)、オランダ (2)、デンマーク (2)、アルジェリア (2)、リトアニア (2)、マダガスカル (2)、ナイジェリア (2)、オマーン (2)、ポーランド (2)、スロヴァキア (2)、フィリピン (2)、チェコ (2)、スウェーデン (2)、バルバドス (1)、ブルネイ (1)、ガンビア (1)、ギニア (1)、ドミニカ共和国 (1)、南アフリカ (1)、ザンビア (1)、アイルランド (1)、イラク (1)、アイスランド (1)、ケニア (1)、キプロス (1)、キューバ (1)、ナミビア (1)、ルーマニア (1)、セネガル (1)、セルビア (1)、シリア (1)、スーダン (1)、台湾 (1)、チュニジア (1)、パレスチナ (1)、クロアチア (1)、チリ (1)、ニュージーランド (1)、スコットランド (1)

⁵ 国名の次に記載されている括弧内の数字は出場回数である。

【表2：第1回から9回までの上位入賞者の出身国】

回	優勝	1位	2位	3位
1	アゼルバイジャン	ウズベキスタン、インド	中国、イラン	ロシア、モンゴル、カザフスタン
2	ウズベキスタン	サウジアラビア、韓国	グルジア、インド	タジキスタン、パキスタン
3	該当なし	アゼルバイジャン、ウズベキスタン	グルジア、インド	トルコ、ギリシア
4	ロシア（トゥヴァ）	ウズベキスタン、イラン	タジキスタン、アゼルバイジャン	アフガニスタン、バングラデシュ
5	該当なし	アゼルバイジャン、ウズベキスタン	イタリア、クウェート、モンゴル	イスラエル、韓国、バングラデシュ
6	クウェート	韓国	イタリア、エジプト	マレーシア、ケニア、中国
7	トゥルクメニスタン	アゼルバイジャン、ウズベキスタン	イスラエル、韓国	イタリア、クウェート
8	韓国	中国、リトアニア	ロシア、ウズベキスタン、イラン	マダガスカル、グルジア、トゥルクメニスタン
9	インド	アフガニスタン、ブルキナファソ	イギリス、韓国、中国	ウズベキスタン、日本、オーストリア